

## 令和6年度 第3回学校運営協議会兼コンソーシアム役員会議事録

- 1 日 時 令和7年3月11日(火) 18:00~19:00
- 2 会 場 松江北高等学校 会議室
- 3 全体協議

### 《学校運営協議会》

- (1) 令和6年度の教育活動及び学校評価について〔資料により教頭が説明〕

#### ・教育活動について

- 文化系の部活動や課外活動については全国レベルの大会やコンクールへ多数出場するなど活発である。
- 体育系の部活動の加入率が低いとの指摘があったが、加入率が低いことは課題ではなく、部活動以外で生徒が頑張っているならそのことを評価すべきである。
- 授業でも知的好奇心を喚起する工夫が必要であり、探究的な学びの重要性を保護者に伝える工夫が必要である。

#### ・学校評価の結果について

- 教員の熱意に関する保護者の肯定的評価が75%と低めであり、改善の余地がある。
- 「先生に相談しやすい」という項目について教員側の評価は高いが、生徒や保護者の評価は低めである。スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーの効果が十分に伝わっていない可能性がある。
- 学習支援アプリを導入した効果はどうか。  
→授業や課題で活用し、自主的に活用している生徒もあり、活用している他校に比べて利用率は高いが、効果については今後検証していく。
- 家庭内で高校の学びについて話題に登る機会が少ないことが、保護者の理解不足の一因であると考えられ、学校の情報を積極的に発信していく必要がある。

### 《魅力化コンソーシアム役員会》

- (1) コンソーシアムの取組及び魅力化事業について

#### ・探究活動について

- 普通科の個人探究をスタートして2年目、全国規模の発表会に参加したり、進路選択に結びついたりするなど成果が出てきている。
- 「高校生国際シンポジウム」「しまね探究フェスタ」などに参加しているが、それぞれの大会によって趣旨や評価基準が異なる。そのことを考慮して応募もしくは参加する研究を考えていくべきである。

#### ・生徒募集について

- 「グローバルスタディーズプログラム」に参加した生徒が学校説明会で知り、入学を決めた事例を聞いた。生徒募集のためには情報発信が重要である。
- 令和7年度入試の志願倍率が1倍を割ったが、志願倍率に左右されることなく学校の目指すものに共感した生徒が入学してくれることが重要である。

#### ・その他の活動について

- 「みらい共創チャレンジ」参加、「科学の甲子園」出場、読書感想文での連続全国入賞などの実績を生徒・保護者に積極的にPRしていく必要がある。